



前期学校評価アンケート

令和4年12月23日
結果と分析

(HP用) 京都市立北総合支援学校

令和4年度 前期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました。

令和4年9月13日（火）～9月22日（木）に実施した前期学校評価の結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇ 分析・表示方法

- 4つの選択肢（よくできている、大体できている、あまりできていない、できていない）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」を合わせた“肯定的な回答”的数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- 成果や課題を把握しやすいように、90%以上を黄緑、80%未満は下線、60%未満は赤で表示します

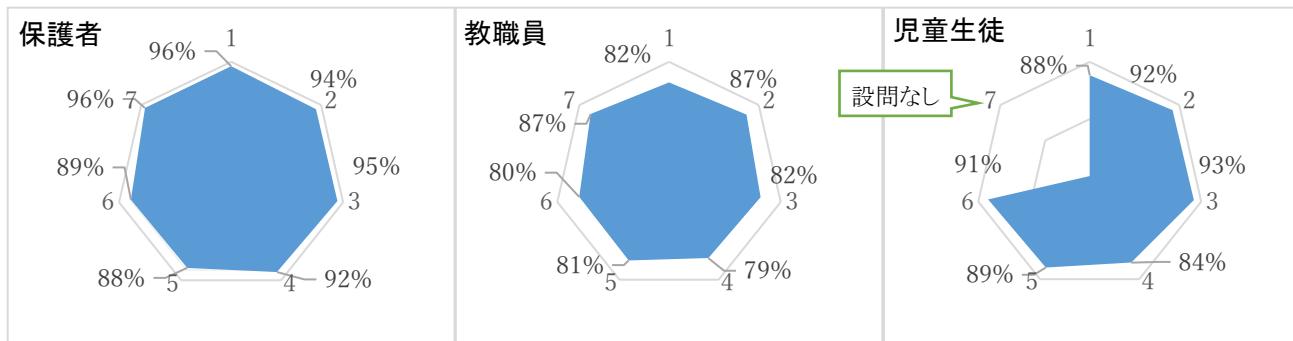
0 【全体】

◇ 対象者・回答率

	保護者			教職員	児童生徒		
	小	中	高		小	中	高
対象者数 (人)	93	49	94	159	94	49	94
	236				237		
回答者数 (人)	52	23	37	135	5	15	33
	112				53		
回答率 (%)	55.9	46.9	39.3	84.9	5.3	30.6	35.1
	47.4				22.3		

◇ 大項目内の平均値

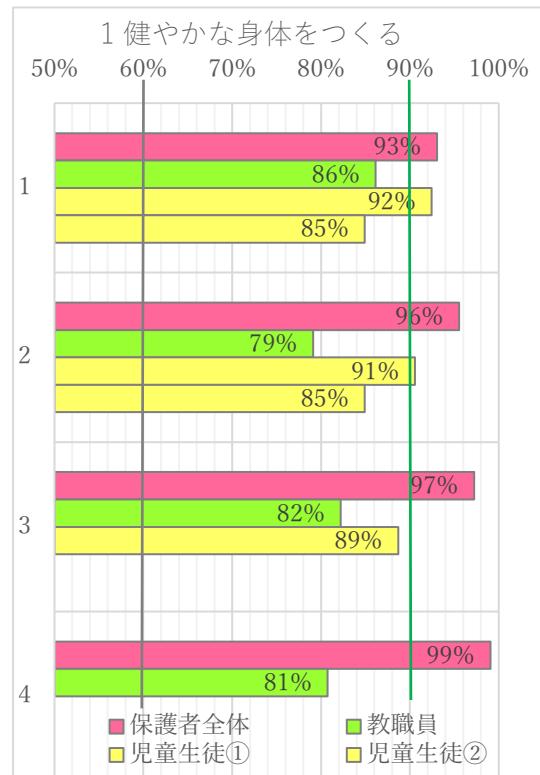
目指す児童生徒像	保護者	教職員	児童生徒
1 健やかな身体をつくる	96%	82%	88%
2 元気にあいさつをする	94%	87%	92%
3 考え、工夫し、生き生きと表現する	95%	82%	93%
4 願いや夢を持って心豊かに生きる	92%	79%	84%
5 役割を担い、役に立とうとする	88%	81%	89%
6 他者とともに生き、学び合う	89%	80%	91%
(7 全体)	96%	87%	



- 保護者の回答率が、昨年度前期 79.9%・後期 85.4%でしたが、今年度は 47.4%と大きく下がりました。昨年度までのマークシート方式から、オンライン(Forms)方式に変更したため、提出への意識が薄れたためと思われます。保護者に対して回答をお願いするメールを実施期間中に再送信した後、回答数が増えたため、後期は、保護者への広報の回数を改善していきます。
- 目指す児童生徒像ごとの大項目の平均値を見ると、保護者・教職員・児童生徒とも、どの項目もバランスよく肯定的な回答がありました。全体的に、教職員より保護者の方が評価が高い傾向が見られました。

1【健やかな身体をつくる】

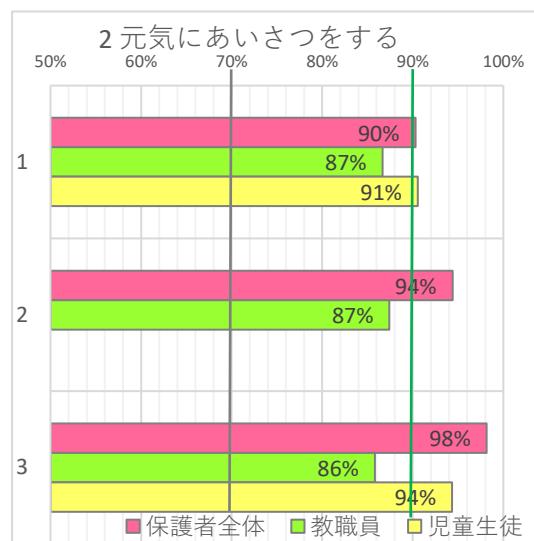
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、 自分の身体や 心を大切にしよ うとしている	①手洗いやうがいを 毎日していますか	93			86	92
	②早ね早おきをして いますか	93	90	86		85
2 学校は、 健康維持 や体力づく りに関する 取組を十 分に行なっ ている	③ランニングやからだの 学習などで、けんこうなか らだづくりをしていますか	96			79	91
	④ふあんな時やしんどい 時に、自分のきもちをま わりの人につたえていま すか	96	100	86		85
3 校内や教室は、 清掃され、衛生的 である	⑤学校や教室の そうじやかたづけ をしていますか	97			82	89
		97	95	100		
4 学校は、教材や備品の 整理整頓、安全、事故防 止に配慮している		99			81	
		99	95	100		



- 保護者の数値を見ると、本校の健康に関する取組に高い評価をいただいていることが分かります。
- 教職員の数値は、保護者と比べると低いですが、おおむね 80%を超える数値で、本校の健康に関する取組を一定評価しています。
- ただし、健康維持・体力づくりに関する設問2の教職員の数値は80%を下回り、昨年度前期より7%程、昨年度後期より9%程下がっています。本校では、個々に応じて身体の学習や体育的活動(ランニング・ダンス・サーキット活動等)をしていますが、現状、熱中症対策や密回避のために、運動に適した場所(グラウンド・体育館・プレイエリア等)や使用時間を3学部で融通し合いながら使っています。その融通の仕方や活動内容の工夫について、さらなる改善をし、児童生徒の健康維持や体力づくりに努めています。
- 校内環境整備に関する設問3・4の保護者の数値は、昨年度前期より10%程、昨年度後期より5%程上がりました。毎月の参観日でも90%を越える評価をいただいています。これは、感染症対策で参観や来校の機会が少なかった昨年度と比べ、月1回程来校の機会がある今年度は、学校環境を実際に見て安心されたことも一因と思われます。教職員は、毎月の「環境整備の日」や「学校安全日」に教室等を点検・整備・清掃することで、安全や清潔を保つようにしています。充実した授業づくりのために、教材・教具が増えがちですが、今後も、教職員が意識を高め、日常的に環境整備に取り組むことで、児童生徒の怪我防止・安全確保、さらには視覚情報の整理から分かりやすさの保障につなげていきたいと考えます。
- 児童生徒も、全項目に対して比較的肯定的な評価です。設問①③の数値が高いことから、児童生徒自身が日々の身体面の取組に自信を持っている様子がうかがえます。設問④の心理面については、今後も、教職員の日々の関わりや「保健の日」の取組、必要に応じたスクールカウンセラーの活用などにより、児童生徒の心理的な安定と適切に表出する力を高めていきたいと考えます。

2【元気につながる】

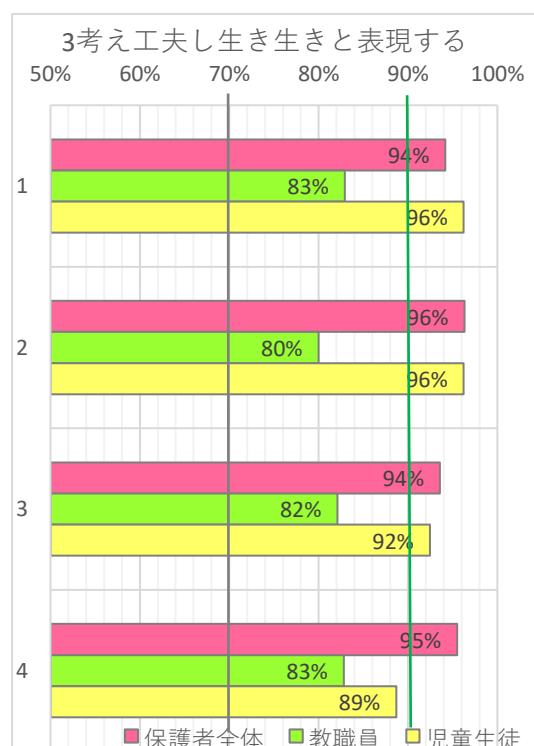
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、自分なりの方法でいいさつをしている	①自分からいいさつをしていますか	90			87	91
		94	95	82		
2 学校は、児童生徒が自分なりの方法でいいさつでいるように取り組んでいる	②先生は、人にいいさつをしたりていねいにかかるつたりしていますか	94			87	86
		100	95	86		
3 教職員は、適切な言葉遣いや態度で児童生徒・保護者・来校者に接している	③先生は、丁寧な態度で接している	98			86	94
		100	90	100		



- ・挨拶に関するこの質問項目群では、保護者・教職員・児童生徒ともに、高評価を得ています。
- ・児童生徒が自分なりの方法で挨拶ができるように、保護者が家庭で、教職員が学校で支援を行なっていることで、児童生徒の挨拶の力が高まっている様子がうかがえます。
- ・学校では毎月はじめの1週間に「いいさつ運動」を実施しています。また、日常的に授業開始の挨拶などが習慣化しており、登校時や来校者への挨拶も児童生徒の積極的な姿が見られます。挨拶が日々の活力向上や円滑な人間関係づくりに役立っています。挨拶の方法は一人一人異なりますが、挨拶には、相手の存在に気付く力や、相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要です。今後も、教職員が挨拶をする姿を見せたり、児童生徒に挨拶を促したりすることで、児童生徒の表現方法や発信する力、人と関わる力を高め、社会性の向上につなげていきたいと考えます。
- ・教職員の言動に関する設問3も、保護者からの評価が昨年度に比べて10%程上がるなど、高評価を得ています。これも、保護者の来校機会が昨年に比べて増え、実際の教職員の言葉遣いや態度に安心されたことも一因かと思われます。教職員の自由記述には、「教職員の丁寧な態度が安心できる環境づくりにつながっている」「教職員間の人間関係が良い」等の肯定的な意見の一方、「もっと積極的に挨拶をするべき」「否定的な捉え方・言い方をする場面がある」との意見もあります。教職員が自身の言動を今一度振り返り、今後も児童生徒の規範となる言葉遣いや態度をとることで、安心できる学校づくりにつなげていきたいと考えます。

3【考え方、工夫し、生き生きと表現する】

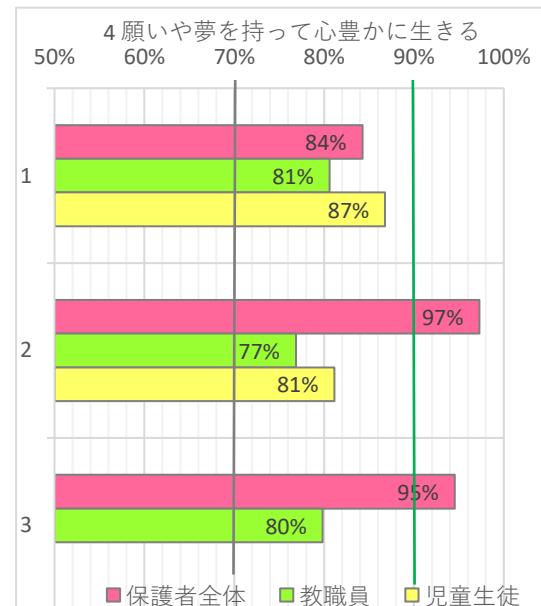
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、考え方、工夫し、生き生きと学習に取り組んでいる	①学校の学習で「できた!」「やった!」とかんじますか	94			83	96
		94	95	94		
2 教職員は、児童生徒が考え方、工夫し、生き生きと学習に取り組めるように授業や教材を工夫している	②先生はわかりやすくおしえてくれますか	96			80	96
		98	95	94		
3 学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組める授業や取組、行事を設定している	③学校生活はたのしいですか	94			82	92
		98	86	92		
4 教職員は、児童生徒の学習や取組の成果・努力を適切に評価している	④先生は、がんばっていることやできたことをみとめてくれますか	95			83	89
		98	91	95		



- この質問群に関して、保護者・児童生徒からは 95%前後の高い評価を得ています。対して、教職員は 80% 程とまずますの評価です。
- 教職員は、学校教育目標「自分から 自分で 自分らしく みんなとともに学び合う子どもの育成」のもと、「個別の包括支援プラン」に基づいて、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに取り組んでいます。教職員のまづまずの数値には、教職員が「子どもたちがもっと考え、もっと工夫し、もっと生き生きと表現するためには、どんな工夫が有効だろうか」「もっとできることがあるのではないか」と日々試行錯誤している意欲が表れている面があると考えます。
- 感染症対策のための制限から、現状、児童生徒がより生き生きと取り組める授業・取組・行事の設定に限度があります。保護者の自由記述にも「対策は分かるが、学校でしかできない経験や仲間との関わりがあるので、できれば経験させてあげたい」等のご意見をいただいている。感染症の状況を見極めながら、児童生徒の命を守ることを最優先に、引き続き基本的な感染症対策の徹底、活動の形態や内容の工夫をして、学習保障に努めてまいります

4【願いや夢を持って心豊かに生きる】

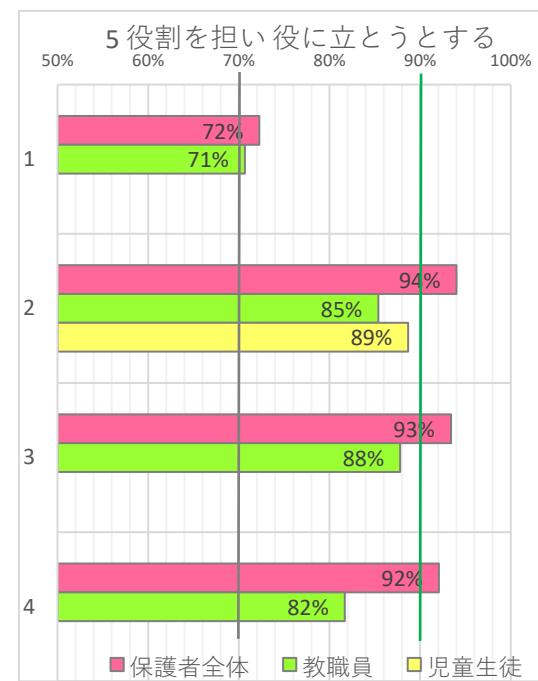
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、願いや夢に向かって生き生きと学習している	①わからないときは自分から他の人にすすんできていますか	84			81	87
		91	87	73		
2 「個別の包括支援プラン」は、本人および保護者の「願い」「目指す姿」の実現を目指したものになっている	②学校生活は、なりたい自分になるためにやくにたっていますか	97			77	81
		98	95	97		
3 保護者、担任、授業担当者で児童生徒の実態や目指す姿、学習内容を共有している		95			80	
		96	86	97		



- 設問1に関して、保護者からは 84%と一定の評価をいただいている。保護者の自由記述にも「毎日学校を楽しんでいる様子です」「先生方が子どもそれぞれに合った学習や活動を考え、それに我が子が応えて生き生きと頑張っている様子に安心しています」等の意見をいただいている。今後も本人を中心とした教育活動を推進していくことを考えます。
- ただし、「分からない」と答えた保護者の方が全回答者数に対して 21%おり、その数を総数に含めると肯定的な回答は 67%です。保護者の自由記述に「我が子は願いや夢を話さないので、本当の思いが分からぬ」とあるように、本人を尊重する保護者の謙虚さが表れた数値でもあるかと考えます。捉えにくい本人の願いや夢ですが、普段の児童生徒の姿・行動から読み取り、懇談会などの機会で保護者と学校との間で合わせることで、より本人に寄り添った捉え方になるように努めたいと考えます。
- 設問2にある「個別の包括支援プラン」は、本人および保護者の願いや目指す姿の実現を目指して作られるものです。保護者からは 95%を超える高い評価をいただいている。一方、教職員は 77%とまづまずの評価でした。教職員の自由記述に「もっと簡潔で読み取りやすい書式に」との意見があります。京都市の地域制総合支援学校が同じ書式であるため、すぐに改善することは難しいですが、簡潔で分かりやすい書式への改善は、関係する教職員や関係機関との情報共有のしやすさ、教職員の業務負担軽減につながるため、検討すべき事項であると考えています。

5【役割を担い、役に立とうとする】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、家庭で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる			72		71	
		85	65	60		
2 児童生徒は、学校で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる	①まかされたことにせきにんをもってとりくんでいますか		94		85	89
		98	100	86		
3 学校は、児童生徒が役割を担うことで自己有用感が高まるように活動の機会や場を設定している			93		88	
		96	90	91		
4 学校は、児童生徒の目指す将来の生活(進路)を見据えて、適切な指導および支援をしている			92		82	
		95	90	89		



- 役割活動に関する設問1・2に関して、保護者・教職員ともに、“家庭の場”では少し低い評価、“学校の場”では比較的高い評価となっています。
- 学校では、学級活動や学習など様々な場面で、役割活動の機会を意識的に設定しています。当番や係活動、日常のあらゆる場面で任せられたことに生き生きと取り組む児童生徒の姿を、保護者・教職員が評価し、比較的高い結果になったと思われます。児童生徒は、設問①が 89%という高い数値であるように、役割活動を積み重ねることで責任感や自己有用感が向上している様子があります。
- “家庭の場”での役割活動が少し低い評価になっていることについては、家庭はリラックスをする場であり、円滑な生活が優先であるため、児童生徒に役割を任せにくことが表れていると考えます。保護者の自由記述に「先生の尽力に頼りっぱなしで、家庭での教育にもう少し力を入れたい」との意見もありました。家庭でも「やりがい」の積み重ねができるように、学校で頑張っている役割を家庭に移行しやすい学習活動を組み立てたり、有効な支援方法を提案したりするなど、学校と家庭の連携を意識して進めていきたいと考えます。
- 進路指導に関する設問4については、保護者全体としては 92%の高評価で、昨年度から 20%程数値が上がっています(小学部 R3 前期 73.3%・後期 72.7%→95%、中学部 R3 前期 55.2%・後期 54.2%→90%、高等部 R3 前期 88.0%・後期 88.5%→89%)。特に小学部・中学部の評価の上昇が顕著です。これは、今年度から発行している「進路だより」(月1回程発行)で、その時々の進路に関する動きや、進路につながる学習についての情報を保護者の皆様に発信をしている成果かと思われます。教職員も、卒後が間近な高等部だけでなく、全ての教職員が進路についての研修を深めるようにしています。その成果で、低学年を担当する教職員も、日々の実践が卒後の進路につながることを意識して指導支援にあたっており、その成果も出ていると思われます。
- ただし、自由記述には進路指導に関するご意見が多く見られました。不透明な見通しを解消するための詳しい説明を求めるご意見、見学・実習の回数についてのご意見、卒業後を見通した低年齢から教育についてのご意見等です。情報提供については、例年実施している進路説明会等に加え、昨年度末(新入生には今年度当初)に「進路ガイドブック」を配布し、前述の「進路だより」の発行も始めました。今後も、個々の児童生徒・保護者に寄り添いながら、日々の取組の充実と情報発信の工夫に努めています。



6【他者とともに生き、学び合う】

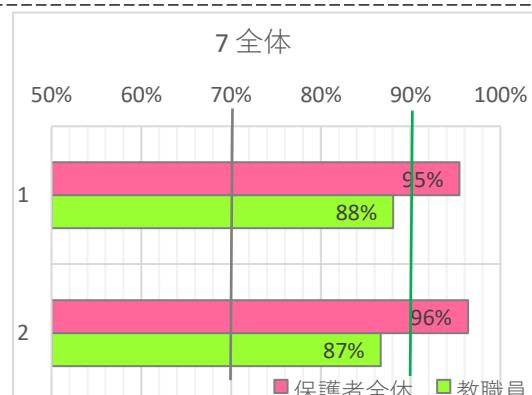
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、友だちに親しみを持って、学校生活を送っている	①友だちとかよくすごしていますか	94			87	87
		96	100	88		
2 学校は、児童生徒の社会参加に向けて、多様な人と関わる取組を設定している(校内、地域、交流学習及び共同学習)	②かぞくや友だち、先生をたいせつにしていますか	77			71	94
		88	80	61		
3 児童生徒は、きまりや約束を守って学校生活を送っている	③きまりややくそくをまもっていますか	93			80	92
		98	89	89		
4 学校は、児童生徒がルールや約束を守ることの大切さを学べるように指導している		93			84	
		96	89	92		



- 設問1は3者とも高評価でした。個々によって障害特性は異なりますが、多くの同世代と一緒に過ごす学校という環境で、児童生徒が自分なりに友だちに親しみをもって学校生活を送っていることが分かります。
- 一方、多様な人との関わりに関する設問2は比較的低い評価でした。感染症対策のために、クラス・学年・学部といった限られた人とのみ過ごす環境であり、校外学習などの機会に制限があることも一因と考えられます。制限に対する工夫として、ICT 機器を活用した多様な人の関わりが当たり前になってきました。学部集会や全校集会、儀式的行事、居住地校交流及び共同学習でもリモートでの交流が多く取り入れられています。実際に人と関わる楽しさや学びの深さにはかないませんが、遠くにいたり病院内にいたりするような実際には会いにくい人とも関われる利点もあります。今後も、まずは校内の身近な人から、他学年・他学部へ、さらに校外の多様な人の関わりを工夫して設定し、児童生徒の社会参加につなげていきたいと思います。
- ルールなどに関する設問3・4は高評価で、保護者の数値は昨年度より 10% 程上がりました。きまりや約束を守ることは、社会生活を送る上で重要です。「きまりだから守らなければならない」という押し付けではなく、「きまりを守ると、自分も周りの人も過ごしやすい」と実感できるように、今後も地道な取組を進めていきます。

7【全体】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 教職員は、本人・保護者の思いを受け止め、誠実に対応している		95			88	
		96	90	97		
2 学校は、学年だよりや学校だより、学校ホームページ等を通して学校の様子を伝えている		96			87	
		98	91	97		



- この質問群は、「目指す児童生徒像」にこだわらず、学校全体について評価する項目になっています。
- 設問1については、保護者の方から高評価をいただいています。教職員は、保護者と日々の連絡帳、懇談会での話し合い、必要に応じた電話や家庭訪問等で、誠実に対応するように努めています。自由記述にも「先生方はお休みが取れているのか心配なほど、よくしてください」等の温かい評価をいただいている。保護者に比較すると低い教職員の数値は、教職員の「もっとできるのではないか」という意欲の表れとも読み取れます。今後も保護者が安心して学校と連携できるように、誠実な対応に努めています。
- 設問2の学校の様子の発信については、保護者の自由記述に「学校ホームページの掲載学年が偏っている」というご指摘がありました。学校教育活動の情報発信と説明責任を適切に実行し、「社会に開かれた学校」につなげていきたいと思います。またそれが、本校の児童生徒の社会的理解につながり、共生社会の実現につながると考えます。